

## 道にスミレを見つける

日本にはスミレの種類がたいへん多いという。だが、意識しないと、案外見つからない。

なぜスミレに関心があるかといえば、高校生のとき、松尾芭蕉が好きだった現代文の先生が、教科書とは別に、芭蕉の紀行文をいろいろ読ませた。その中で次ぎの句が鮮明に思い出される。

「山路来て何やらゆかしすみれ草」

今調べてみると、「野ざらし紀行」に載る句である。結婚式で色紙に書く言葉に屈すると、よくこれを引用した。

スミレは道路の脇にあるコンクリートの隙間によく生える。アルカリ性が好きなのか、それとも「生活の知恵」なのか。いったんその直根を下ろしてしまえば、もう取り除くことができない。上から3枚の写真は、そんなスミレたち。





フモトスミレ?



タチツボスミレに近いような、そうでないような。

